

代表取締役社長
社長執行役員

紅村 康



持続可能な企業・社会の 実現を目指します

より良いサービスを追求し、新しい価値を創造することで
社会に貢献していくとともに、CSRへの取り組みを一層強化していきます。
これまで積み上げてきた「信頼」のもと、「信頼のトップブランド」の確立を
全社員一丸となって取り組んでまいります。

京王グループは京王グループ理念として、「つながりあうすべての人」に「誠実」であり、「環境にやさしく」、「信頼のトップブランド」となることを掲げています。

この京王グループ理念を具現化するため、「京王グループ経営ビジョン」「京王グループ行動規範」に基づき、2020年度を目標年度とする「京王グループ中期3ヵ年経営計画」を策定し、“成長の実現”に向けた諸施策を進めてまいりました。2018年度までは順調に推移しましたが、2019年度後半以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、訪日外国人客が急激に減少したほか、外出自粛による国内個人消費の低迷などの極めて大きな影響を受け、今日にいたっております。

当社をはじめ京王グループのすべての運輸事業者は、「輸送の安全性」の確保という、重要な社会的使命を担っており、現在の新型コロナウイルス感染症禍の下でも、この使命を果たし続けていくことで、京王グループの信頼性は構築されるもの、と考えています。

本CSRレポートは、当社とつながりあう様々なステークホルダーに対するひとつのコミュニケーションツールとして、京王グループの事業を安全、社会、環境といった観点から整理を行い、まとめています。



社長による巡視

安全確保こそが最大のサービス

鉄道の安全性向上への取り組みとして、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業では、事業主体である東京都とともに用地取得を進めたほか、高架化のための準備工事を進めました。

頻発する自然災害への備えについては、鉄道施設の耐震補強工事や大雨・落雷対策工事を引き続き進めました。

また、昨年9月および10月に上陸した台風への対応として、防災行動計画に基づいた計画運休を実施したほか、事前の線路等の巡回・点検結果に基づき復旧用の機材を配備し、早期の運転再開を図りました。

ホームの安全対策としては、2020年5月に飛田給駅でホームドア整備が完了、下北沢駅ではホームドア設置のためのホーム補強工事に着手したほか、仙川駅・分倍河原駅・橋本駅でホーム転落防止固定柵を設置しました。

多世代が暮らしやすい沿線・働きやすい職場づくり

京王グループでは、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」をキーワードに、多世代が暮らしやすいよう、引き続き、沿線価値向上に資する施策を展開しています。



総合防災訓練

昨年6月には企業主導型保育所「京王キッズプラッツ多摩センター」を開設したほか、沿線住民の暮らしに役立つサービスを提供する「京王ほっとネットワーク」では、多摩ニュータウンを中心に実施している食料品等の移動販売について車両を増備し、八王子市内の販売拠点数を増やしました。

そのほか、東京都が実施するスムーズBiz推進期間中に、夕間時間帯の時差通勤を促進することを目的に臨時座席指定列車「京王ライナー 時差Biz号」を運行しました。また、京王プラザホテル多摩内の会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」にて会員登録なしで手軽に施設を利用できるキャンペーンを展開するなどの取り組みが評価され、東京都から「スムーズBiz推進大賞推進賞」を受賞しました。

本年2月のダイヤ改正では、座席指定列車「京王ライナー」の朝間時間帯の都心方面への運行を増発し、通勤時間帯の快適性向上を図りました。また「テレワーク・デイズ」や「スムーズBiz」など東京都や関係団体が実施する取り組みに参加し、働き方改革を推進しています。

多角的な環境保全活動の推進

省エネルギー化の推進として、鉄道事業における消費電力削減効果に優れたVVVFインバータ制御装置の

継続導入、車両や駅構内、オフィス・店舗などの施設における照明のLED化を進めました。さらに、岩手県宮古市において太陽光発電事業を開始しました。

また、グループ会社では、CO₂や環境負荷物質の排出を抑制するなど地球温暖化防止に貢献する燃料電池バスを導入、昨今、注目されている海洋プラスチックゴミ問題についても、京王プラザホテルなどで紙製ストローの導入などグループ内で取り組みを進めています。今後も電力使用量・CO₂排出量削減を中心に様々な環境に配慮した施策を進めていきます。

着実な経営体制の整備

京王グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的としたコーポレート・ガバナンスについては、ガバナンス委員会などにおいて、コーポレートガバナンス・コードの主旨を参考としながら、経営戦略やガバナンスのあり方を社外役員の知見も取り入れながら、体制整備を図っています。

本年6月には、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行、執行役員制度の導入、役員報酬制度の改定によりコーポレート・ガバナンス体制のさらなる充実を図っております。



決算説明会

新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス対応としては、2020年1月中旬に社内に対策総本部を立ち上げ、その後4月には危機に迅速に対応するために、業務組織の一部を変更し総務法務部を「総務・危機管理部」と「法務・コンプライアンス部」に再編しました。

鉄道では、電車内や駅構内設備の消毒をはじめ、電車内への抗ウイルス・抗菌効果のあるコーティング剤の噴霧加工などを実施しているほか、従業員に対しても体調管理の徹底、マスクの着用、職場内のアクリル板の設置等、様々な取り組みを行っております。

グループ各社でも、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは換気扇による車内換気や適宜車内の消毒を実施、京王プラザホテルでは、客室や宴会場のドアノブ・扉、エレベーター内のボタン、エスカレーターの手すり、各種備品等お客様の触れる機会が多い箇所のアルコール消毒を適宜実施、飛沫感染防止のためにアクリル板の設置などの対策を行っています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した後の時代における京王グループの持続的な成長に向けて、京王線の連続立体交差事業や新宿駅周辺再開発など、将来を見据えた必要な投資を着実に推進するとともに、各事業セグメントにおいて新たな事業戦略を検討し、新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、大きな変化

が起こると想定される消費動向や働き方やライフスタイルに柔軟に対応してまいります。

今後も、社会インフラを担う企業グループとして、感染の拡大防止と事業活動の継続に取り組んでまいります。

持続可能な企業であるために

京王グループは、社会および企業におけるESG(環境・社会・ガバナンス)やSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みが高まる中、引き続き、これらを意識して企業価値を向上させることに努めてまいります。

また、ポストコロナに向けて、変化に対応した事業戦略を検討し、その先の2030年代の事業環境でも存在する企業であるために、社会的責任を果たし、京王グループとつながりあうすべての皆様に「安心・安全」を提供することで、「信頼のトップブランド」の確立を目指します。消費動向や働き方、ライフスタイルの変化に柔軟に対応しながら、グループ一丸となってこの難局を乗り越えてまいりますので、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新型インフルエンザ等対策総本部
(3月19日開催の様子、現在はWeb参加を含み座席間隔を空けています)